

○過去の事業

インドネシア

「インドネシア結核対策プロジェクト」(2008年10月～2011年10月)

JICA 事業

途上国で結核患者の早期発見に有効な手段とされているのが喀痰による結核菌検査です。プロジェクトは、インドネシアの保健省等をカウンターパートとして、全国で質の高い結核菌検査が行われるよう、検査技師や結核担当官に対する国の研修体制を整え、併せて、結核菌検査の精度管理体制を強化することを目的としました。

東ジャワ州の大学病院内のナショナルレファランスラボラトリーに、国レベルで研修を統括する組織を整備し、また、西ジャワ州には、州ラボラトリーの検査の精度管理を行うためにリージョナルレファランスラボラトリーを設け、精度管理のモデルネットワークを構築しました。

◆関連記事「複十字 No.344 p12」<http://118.82.126.205/siryoukan/kikanshi/pdf/344.pdf>



「TBCARE 事業」

米国国際開発庁支援事業

KNCV(オランダ結核予防会)、The Union(国際結核肺疾患予防連合)、WHO、ATS(米国胸部学会)、FHI(Family Health International)、MSH(Management Science for Health)、CDC(米国疾病対策予防センター)と連携し、世界の結核高負担国の対策を推進するために、世界20か国以上で技術支援事業「TBCARE」(2010年10月～2014年12月)を行いました。結核予防会はカンボジアとインドネシアにおいて活動しました。

「PPTI-JATA 結核対策共同プロジェクト」(1997年～2010年)

複十字シール募金支援事業

PPTI(インドネシア結核予防会)と共同で、ジャカルタ市の診療所2カ所で、結核対策のモデルプロジェクトを実施しています。患者の家族等を服薬支援者とするDOTSや服薬管理の記録・報告の導入を進めました。

◆関連記事「複十字 No.314 p20」<http://www.jata.or.jp/rit/rj/314jakarta.pdf>